

## モールドデザインコースと 実践型人材養成システム

中国能開大の久保保也さんから引継ぎました職業大東京校、機械系の前田です。久保さんとは、10年以上前に小山短大（現・関東能開大）の制御技術科で一緒にさせていただきました。学生の教育・訓練や教材開発について深夜まで語り合ったことを、今でもはっきりと覚えています。

さて当校では、一昨年から教員は系・グループ制を、また学生には系・コース制を導入しています。教員は従来の科のみに付くのではなく、系に所属します。そしてさらに専門性に応じたグループを作りその中で活動します。私の所属する機械系では4つのグループがあり、各系それぞれ複数のグループで構成されています。これによって、おのおのの教員は、専門性を高め合い、教材や機材を共有し、専門的な技術支援などもグループで対応します。セミナーの計画・実施やグループ研究などにも積極的に取り組むことが可能です。

学生も同様に専門課程にコース制を導入しました。系共通科目を課程の前半に配置し、1年次のⅢ期もしくは2年時から選択できるようにしました。もちろん、能開法の要件や標準カリは満たすように考慮し、実習課題等を工夫することでコース制が走り出しました。

機械系では、従来の生産技術科のカリキュラムをもとに、より精密機器の設計・製作に特化した「精密機械コース」、プラスチック製品の設計・デザインから成形金型の設計・製作、成形までの一連の技能技術を修得する「モールドデザインコース」、さらに従来の制御技術科のカリキュラムをもとに、産業用ロボットなどの制御システム構築やメカトロの技能技術を修得する「メカニカルコントロールコース」、生産システムのライフサイクル全体を対象とした機械設計、設備設置、自動化運転、保全保守等について修得する「機械設計保全コース」を用意しています。

金型グループを中心に運営している「モールドデザイン

コース」の中には、さらに一部「実践型人材養成システム」を導入しています。

実践型人材養成システムとは、従来の日本型デュアルシステムを再編成したものであり、企業が主体的となって「自らの企業における雇用関係のもとでの実習(OJT)」と「教育訓練機関における自社のニーズに即した学習(OFF-JT)」を組み合わせた新たな教育訓練システムです。今後、就労でも就学でもない「第三の選択肢」として普及・定着が図られています。

本システムを活用する企業側のメリットは、企業ニーズを意識した学習・訓練による教育訓練効果の向上や各種支援制度による訓練経費の軽減などがあげられます。学生にとっては、早期に雇用契約を結ぶことによる学習目的の明確化と、在学中に賃金を受け取ることができる経済的なメリットがあります。現在、モールドデザインコースで5名の学生が本システムを活用しています。



グループ制にしてもコース制にしても、もちろん利点ばかりではありません。多くの問題を含んでいることは否めません。しかし、手をこまねいていれば、現状どおりでも何も変化は起きません。東京校では、魅力ある大学校づくりに校をあげて取り組んでおります。今後とも貴重なご意見やご支援をいただければ幸いです。